

港区立本村小学校  
平成 29 年度 授業改善推進プラン

教育目標

◎すすんで学ぶ子  
○ひとの気持ちを考える子  
○体をきたえる子

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

☆新しい学習指導要領に基づく質の高い授業実践に努める。  
○基礎的基本的な内容を確実に身に付けさせると共に、アクティブラーニングを意識した授業実施し、「思考力・判断力・表現力」と共に「主体的に学習に取り組む態度」を育てる。  
○体験を通じた学習や地域や企業等による活動の機会を増やし、直接体験を通して理解を深めると共に豊かな人間性や社会性を育てる。

昨年度の成果と課題

○学力調査の結果として、全体としては学習内容の理解は高まっている。  
○学習理解において二極化の傾向にあり、習熟度の低い児童に対し、立ち戻って学習に取り組み、基礎的基本的学習事項の定着を図る必要がある。  
○「読み取る力」に課題が見られ、話の意図やポイントを的確に掴みながら文章を読んだり、話を聞いたりする力を育てる必要がある。  
○学習に対する、感心・意欲・態度が育っていない。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の実態に基づいた年間指導計画の作成・改善</li> <li>○授業時数の確保</li> <li>○高陵アカデミーにおける幼小中一貫カリキュラムの作成委・実施</li> <li>○読書活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎・基本の徹底、東京ベーシックドリルの活用</li> <li>○少人数指導の充実</li> <li>○学力調査（全国・東京都・港区）の分析を活かした授業改善プランの作成</li> <li>○言語活動の充実</li> <li>○体験的な学習の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○評価計画の改善</li> <li>○評価サイクルの活用</li> <li>○児童の自己評価の分析</li> <li>○東京ベーシックドリル診断シートの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「主体的・対話的で深い学び」についての理解・授業実践</li> <li>○授業研究による研究の充実（各学年 1 回、年間 7 回研究授業実施）</li> <li>○言語活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者と連携した家庭学習の実施</li> <li>○授業・校内行事、地域行事等による地域との連携</li> <li>○開かれた学校づくり（教育活動の公開）</li> </ul>

具体的な取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習指導要領において、前年度の反省をもとに年間指導計画を改善・修正を行い実践し、教材・教具の整備と活用を図る。</li> <li>○学力向上のために、土曜日を活用して授業時数確保を行い、長期休業中には、個別指導を中心とした取り組みを実施する。</li> <li>○高陵学校区の幼小中の連携を通して、一貫カリキュラムに関わる授業研究や保育、授業の相互交流を図り、円滑な就学や継続して行える学習内容を考えていくように努める。</li> <li>○全教育活動の中で、言語活動の充実を図ると共に、人権尊重の精神を育成する。</li> <li>☆年間を通して朝読書（火・金）を実施すると共に、全学年で毎月一回、保護者ボランティアによる読み聞かせを行い、読書活動の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東京ベーシックドリル等を活用し、スモールステップで基礎・基本を確実に身に付けさせる。</li> <li>○算数科を柱に筋道を立てて考える力を身に付ける指導体制を実施していき、問題解決の過程を重視した授業を通して、問題解決能力の育成を図る。</li> <li>▲全学年を見渡して、各教科で課題のある学習内容を明確にし、繰り返し指導していく。</li> <li>○全国および港区の学力テストの結果を基に、授業改善に取り組む。</li> <li>▲活用する力を身に付けさせるため問題解決の活動を基盤に思考力・説明力・表現力に重点を置いた授業展開を進める。</li> <li>☆全教科領域において言語活動の充実を図る。特に話し合う活動（個→ペア→グループ→全体）を意図的に取り入れ、主体的な学習に取り組む意欲や態度を育む。</li> <li>○体験を取り入れた授業を計画的に行い、思考力・判断力・表現力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習指導要領に対応した評価基準について定期的に確認、修正を行い本校の実態に基づいた評価を行う。</li> <li>▲診断的評価→形成的評価→総括的評価のサイクルを厳守し、児童の学習状況を把握し、授業を進める</li> <li>○児童の意欲を高めるために、授業の終わりに振り返りを書くなど、自己評価を取り入れ、それを次の授業に生かしていく。</li> <li>○事前テスト、課題別テストを実施して児童の実態に基づいた授業を行う。</li> <li>○評価の観点を明確にして、児童の学習状況を分析し、指導効果が上がる授業へと改善していく。</li> <li>☆東京ベーシックドリル診断シートを毎学期実施し、学習の定着度を確認し指導法を改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆「確かな読みの力を育てるための指導法の工夫」を研究主題とし、児童が自ら見通しをもって粘り強く取り組む授業展開や、友達と関わりながら自己の考えを広げ深められる「対話的な学習」の実現をめざし実践を積み重ねていく。</li> <li>☆国語の授業において「対話する場面」を意図的に設定し考えを広げたり深めたりできるようにする。</li> <li>☆研究授業を各学年 1 回、年間 7 回実施する。</li> <li>☆朝読書（火・金）、保護者ボランティアによる読み聞かせ（毎月 1 回）読書通帳、朝のスピーチに全校で取り組み言語活動の充実を図る。</li> <li>☆「対話的な学習」を通して、友達と考えを伝え合い、その中で自分の考えを振り返ったり、友達の良さに気付いたりする子供の育成をめざす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆連絡カードにより家庭学習の内容を伝えたり、音読や家庭学習の確認を促したりする等、保護者と連携して家庭学習を実施し、児童の学習の定着を図ると共に、家庭・地域の教育力を高めていく。</li> <li>○学校サポーターとして、地域、保護者などに積極的に教育活動に関わってもらおう。</li> <li>▲学校の教育活動を広く理解してもらうために、学校公開を毎学期 1 回開催する。また学校ホームページを活用し、児童の様子を保護者や地域に積極的に知らせていく</li> <li>○地域の行事に、若手教員を含むより多くの教員が積極的に参加し、地域との連携をより深い協力体制を強める。</li> <li>○防災訓練を、地域とともにを行い防災・安全に対する意識を高めるとともに、災害に備える。</li> </ul>
---	---	---	--	---